

研究公開文書

2026年6月16日

研 究 名	大腿骨近位部骨折患者の母指球筋と機能予後について
研 究 の 概 要	大腿骨近位部骨折患者のうち約4割がサルコペニアを有し、ADLが低下することが報告されています。サルコペニアは骨格筋量の測定は必須となっています。骨格筋量の測定は全身の骨格筋量を反映する大腿前面の筋厚を測定しますが、炎症や浮腫により測定精度は低下してしまいます。本研究は大腿前面の筋厚の代替案として母指球筋の筋厚を提案し、早期から身体機能や日常生活動作能力の低下を予測し、適切なリハビリテーションを展開することを目的としています。
研 究 対 象	包含基準：大腿骨近位部骨折患者、65歳以上 除外基準：末期ガン患者、慢性肝疾患患者、経管栄養患者、手に疾患を有する患者、受傷前歩行困難な患者、感染により隔離された患者、同意を得られなかった患者、リハビリ中止となった患者
研 究 責 任 者	小田原市立総合医療センター リハビリテーション室 西野光貴
研究実施期間	研究許可日～2031年3月31日
連 絡 先	小田原市久野46番地 小田原市立総合医療センター 0465-34-3175